

論壇

人類の脅威への「武装」

ワクチンの接種が進んで、コロナ禍の重苦しさから少しずつ解消されるような気がする。ワクチンは万能ではないし、まだ接種できていない人も多くいるので、感染予防を続けることは大切だが、多くの先進国では経済状況も急速に回復が始まっているようだ。それにしても、もしワクチンが利用可能でなかったらどうなっただろうか、と考えてしまう。1年前にはワクチンの早期利用については悲観的な見方も多かった。現場での研究者の踏ん張りといくつかの幸運が重なって、早い段

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

階でのワクチン接種が可能になったのだらう。社会にとつてイノベーション(技術革新)は重要な存在だ。ファイザーやモデルナのワクチンはメッセンジャーRNA型のワクチンだそうだが、こうしたワクチンの存在はイノベーション活動の結果とも言える。

私たちの日々の生活は、多くの

イノベーションの重要性

イノベーションを支えられている。イノベーションにも画期的なものから規模程度のものまでさまざまあるが、こうした多くのイノベーションがなければ私たちの生活はもっと悲惨になっているだろう。医療の分野では画期的な医薬品の開発によって救われる患者

も多くなる。

もちろん、イノベーションは医療分野だけではない。世界的に大きな流れとなってきた気候変動への対応においても、イノベーションが鍵を握っている。2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするには、イノベーションなしにはその実現は不可能だ。世

にも、食料問題、生物多様性の破壊、水問題など、人類が直面する脅威は数多くある。こうした脅威から私たちの生命や生活を守るためには、人類も新しい技術で武装することが必要となる。今日ほど、イノベーションが重要な存在となっている時代はないのかもしれない。

劣悪な日本の研究環境

今回、日本は国内でワクチンを早期に生産することができなかった。海外に依存せざるをえなかったのだ。日本でワクチンの開発や製造が遅れたことにはいろいろな理由があるだろうが、日本のイノベーションの力が弱体化していると感じているのは私だけではないだろう。優秀な若者がもっと科学

の分野に進んでもよいと思うが、世の中の傾向は逆に向かっているようだ。仕事から若い有望な研究者にお会いする機会も多いが、多くの研究者が米国で研究活動을続けることを選んでいる。日本の大学や研究所は研究者にとって劣悪な環境となっている。世界のどこにいても日本人の研究者が優れた成果を出してくればよいとは思いますが、それにしても日本の現状はお寒い限りだ。

コロナ禍が起きたことは不幸なことではあったが、これを機会に社会がイノベーションの重要性を再認識することになればと願っている。医療だけがイノベーションの対象ではないが、まずは緊急性のある分野から手がけるというのが現実的だろう。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。